

## 令和 7 年度事業計画 令和 7 年 10 月 1 日～令和 8 年 9 月 30 日

現代社会は、AI、量子技術、次世代医療といった革新的な技術が急速に発展し、私たちの生活や産業構造を根底から変えようとしている。こうした変革の波の中で、ナノテクノロジーは、それらの最先端技術を支える基盤技術として、また、それ自体が新たな価値を創造する源泉として、その重要性を増している。

ナノテクノロジーは、単に既存の製品の性能を向上させるだけでなく、これまでになかった機能を持つ新素材や革新的なデバイスを生み出し、持続可能な社会の実現や、未だ解決されていない社会課題へのアプローチを可能にするポテンシャルを秘めている。

このような時代背景において、産学官の知見を結集し、ナノテクノロジーの社会実装を加速させる NBCI のようなビジネスプラットフォームの役割は、これまで以上に不可欠となっている。

NBCI は、設立から 20 年以上の歴史を持ち、ナノテクノロジー分野の発展に貢献してきた。しかし、目まぐるしく変化する技術動向や社会情勢に対応するためには、今一度、その活動基盤を見直し、「未来を創出する」ためのプラットフォームとして、その進化を止めることなく、新たな時代へと力強く踏み出す必要がある。

令和 7 年度は、この「進化」をキーワードに、ナノテクノロジーがもたらす無限の可能性を最大限に引き出し、社会実装を加速させるための、よりダイナミックで柔軟なビジネスプラットフォームへの転換を目指す。

そのため、令和 7 年度も、以下のスローガンを掲げ、活動を推進する。

### スローガン：『つなぐ、拓く、進化するプラットフォームへ！』

また、当協議会のミッション・ビジョン・バリューについては以下のとおり。

#### ●ミッション（使命）

ナノテクノロジーの社会実装を加速し、日本の産業競争力強化と国民生活の向上に貢献する。

#### ●ビジョン（あるべき姿）

ナノテクノロジーが社会の基盤となり、人々の生活を豊かにする未来を実現する。

#### ●バリュー（価値観）

イノベーション：新しい技術やビジネスモデルの創出を支援する。

連携：産学官連携を推進し、多様な会員との連携を強化する。

社会貢献：社会課題解決に貢献し、持続可能な社会の実現を目指す。

令和7年度においては、ナノテクノロジーの社会実装を推進し、会員企業の皆様のビジネスチャンス拡大に貢献していくため、以下の取り組みを加速させていく。

- ・会員間の連携強化とプラットフォーム機能の進化  
ハイブリッドイベントやリアルでの分科会、WGを一層推進し、会員同士の活発な交流を促進する。NBCI事務所の機能や運営方法を見直し、会員が新たなビジネスチャンスを創出できる、より魅力的な交流の場としての進化を図る。
- ・デジタル化の推進による情報提供の効率化・高度化  
ホームページを刷新し、最新の情報発信を強化する。生成AIなど新たなデジタルツールの導入により、会員への情報提供を、より効率的かつ効果的に行える体制を構築する。
- ・グローバルな視点での規制対応と意見発信  
海外におけるナノテクノロジー規制に対し、NBCI内部の体制を整え、産業界として科学的エビデンスに基づいた意見発信を継続し、国際的な動向に対応する。
- ・次世代を担う人材育成への支援強化  
若手研究者や技術者向けの育成プログラムへの支援を積極的に行い、ナノテクノロジー分野全体の活性化に貢献する。

上記のNBCI機能強化活動と並行して、目指す姿や価値を国内外に分かりやすく発信する。現会員との個別対話をこれまで以上に積極的に行い、NBCI活動の更なる活用を促進する。特に若手人材の参画を喚起・促進することで、会員組織の活性化を図る。

また、非会員に対しても、NBCIの魅力や特長を広く周知するための広報活動を強化しすることにより、会員数の増加を目指し、NBCIの強みである多様性をさらに強化・活性化させる。

令和7年度は、幹部会員27、一般会員118、賛助会員30の計175会員体制（令和7年11月現在）で開始する。令和7年度は、これらの会員基盤をさらに拡充し、より強固なプラットフォームを目指す。

## 1. 事業方針

### 1) テクノロジー委員会

ナノテクノロジーに関連する技術シーズ・応用・製品・計測評価に関する情報収集と共有、データベースの整備と利活用、横串連携を通じて、ナノテクの実用化を促進する。

- ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関・大学の連携促進活動
- ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動
- ③府省の取り組みや動向に関する情報収集と会員への展開活動

### 2) 社会受容・標準化委員会

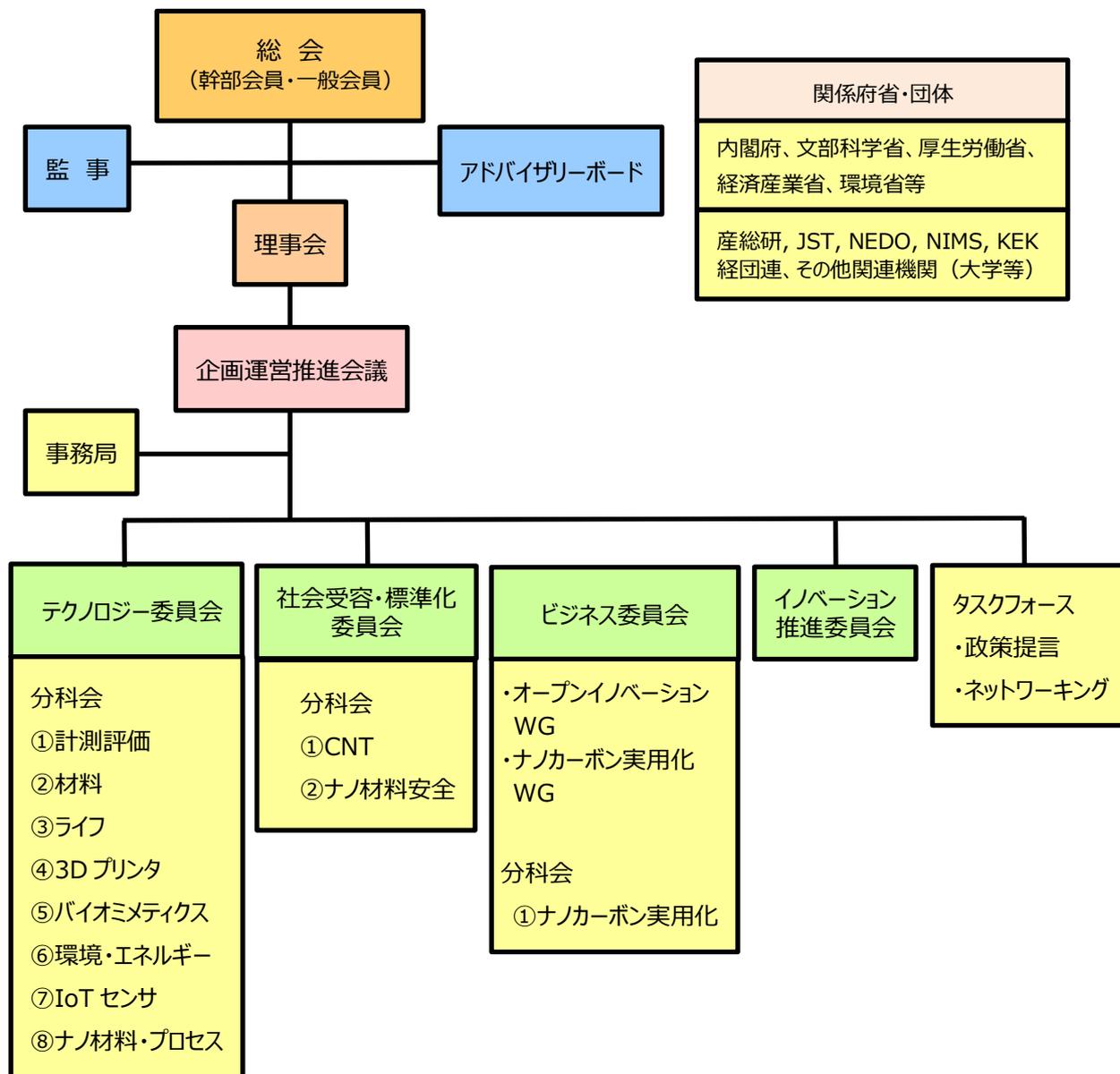
委員会の重要課題を社会受容及び標準化の観点で、以下の項目に設定し活動を進

める。

- ① ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
    - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
    - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動
    - (3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信
    - (4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化
  - ② ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備
    - (1) ISO/TC229 標準化活動
    - (2) OECD/WPMN 標準化活動
- 3) ビジネス委員会
- ビジネスのベースとなるパーソナルネットワークを構築し、双方向のコミュニケーション・交流、オープンイノベーション、社会課題解決に繋がるシーズ・ニーズマッチング、ビジネスマッチングを促進する。
- ① オープンイノベーション活動の促進
  - ② ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供
- 4) イノベーション推進委員会
- 委員会の重要課題を以下の項目に設定し、活動を進める。
- ① 関係府省や研究開発機関からの政策や技術動向紹介
  - ② ナノテクに関する府省・関連団体の動向調査
- 5) 政策提言タスクフォース
- 令和 8 (2026) 年度開始の「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた NBCI 政策提言書の提出後のフォローアップ活動として、内閣府による「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関する情報収集、意見交換を目的とした講演会を企画・開催する。
- 6) ネットワーキングタスクフォース
- 社会課題解決に貢献するナノテクノロジー業界団体として、ビジネスネットワークの拡大を図る。
- ① 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議(ナノテク展)を活用したビジネスネットワークと NBCI プレゼンスの向上
  - ② 国際ナノテク団体との連携の推進
- 7) 会員サービス向上・新規会員勧誘
- 会員ニーズの把握とそれに合致したサービスの向上に努め、NBCI のプレゼンス向上を図るとともに新規会員の参画を促す。
- ① 情報発信・個別対話・会員活動支援
  - ② 対外発表・広報活動・新規会員勧誘

## II. 一般事業

### 1. 体制図



産総研：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

JST：国立研究開発法人 科学技術振興機構

NEDO：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

NIMS：国立研究開発法人 物質・材料研究機構

KEK：大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

## 2. テクノロジー委員会

### 1) 事業方針

テクノロジー委員会は、ナノテクノロジーの実用化を促進するために、会員企業間、及び会員企業と国・公的研究機関間の仲介やナノテクノロジーに関する技術シーズ、応用、製品に関しての情報収集・発信を行う。このため委員会の事業方針を下記のとおり設定し、活動を進める。

- ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関・大学との連携促進活動
- ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動
- ③府省の取組みや動向に関する情報収集と会員への展開活動

令和 7 年度は、分科会活動の情報共有と横串連携を目的とする活動報告会を継続開催する。また、産総研、NIMS、QST 等の公的研究機関との新たな連携のあり方についての議論を継続する。その他、会員が入手したい政策や動向に関する情報を委員会・分科会内でヒアリングを行い、要望のあった情報を収集し会員企業に展開する。

分科会活動を通して、会員企業間の連携の基礎となる、参加メンバー同士の企業・業種を超えての幅広いパーソナルネットワーク作りを支援していく。

### 2) 事業計画

- ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関、大学との連携促進活動
  - ・テクノロジー委員会及び各分科会において、産総研、NIMS やマテリアル先端リサーチインフラ、大学等との連携活動、意見交換を推進する。
  - ・各分科会へ産総研、JST、NEDO、NIMS、マテリアル先端リサーチインフラからオブザーバーや講演会講師に招聘し、国の研究開発活動との連携を図る。
  - ・分科会の会合・講演会において、リアル開催を増やしていく。

#### (1) NIMS 連携

分科会にオブザーバーとして参画いただく。(材料分科会)

#### (2) マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) 連携

NBCI-ARIM の技術交流会を継続して開催する。(材料分科会)

マテリアル戦略総合シンポジウムの協賛、及びマテリアル先端リサーチインフラ NIMS 担当領域セミナーの案内を通じ、最先端研究設備による成果事例と活用のノウハウを知る機会として会員企業に紹介する。

#### (3) 大学連携

大阪大学のナノテクノロジー関連講座への社会人講師派遣を継続する。これにより、大学における研究開発人材の育成・社会人教育という一面にとどまらず、ナノテクノロジーの社会的貢献、並びに NBCI の活動に関する理解を一般に広めていく。

## ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動

### (1) 委員会・分科会活動

- ・委員会・分科会における情報収集・発信活動として、会員向けの講演会開催を継続するとともに会員間の情報交換の場を提供していく。
- ・テクノロジー委員会及び各分科会の活動目的・ゴールとそれに対する成果トピックスや問題意識を共有して、分科会間の横串連携を促す目的、会員の分科会への参加を促す目的で、賛助会員も含めた全会員を対象に、活動報告会を実施する。令和6年度同様に、テクノロジー委員会以外の委員会も含めてNBCI全体の活動について紹介することを考慮して開催方法を検討する。
- ・計測評価分科会は、作成作業中である「ナノ計測評価FAQ」の初版完成を目指す。それらをNBCIホームページに掲載中の「計測評価Library」に掲載することにより、ナノ計測評価に係る産業界の疑問等に回答していきたい。
- ・材料分科会は、マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) との技術交流会を継続して実施する。また、材料・素材関連の国家プロジェクト等の資料や情報を分科会メンバー間で情報共有、意見交換を行うとともに、有識者の講演会を企画・開催する。
- ・ライフ分科会は、バイオテクノロジー、ライフサイエンスを中心にメンバーの関心事やトピックスについて情報共有、意見交換を行うとともに、関連するテーマの講演会を企画・開催する。
- ・ナノ材料・プロセス分科会は「ナノ材料・プロセス業界動向マップ」の作成を目指し、テーマを水素社会にターゲットを絞り、今まで開催した講演会などの情報を基に、技術ニーズ動向マップの取りまとめを行う。
- ・3D プリンタ分科会は、分科会内でトピックスや展示会等の最新情報の共有を図る。分科会メンバー企業の現地見学会を開催する。今後は新たな取り組みを含め、以下 a)、b)、c) を実施し、メンバー自身がパッシブ (情報収集) からアクティブ (ビジネス創出) にモードチェンジしていけるよう推進する。
  - a) メンバー企業及び関係先の現地開催継続
  - b) Work Shop の開催
  - c) 他団体とのコラボレーション開催による情報集約。
- ・バイオミメティクス分科会は、高分子学会バイオミメティクス研究会、NPO 法人バイオミメティクス推進協議会を始めとする関連団体との連携を活かしながら、アカデミアから講師を招聘した講演会開催や、関連学会の報告、専門家からの最新研究紹介、ISO 標準化情報のアップデートにより情報を共有していく。また、メンバー企業からの話題提供も継続していく。
- ・環境・エネルギー分科会は、カーボンニュートラルを含め環境・エネルギー

分野の取組み（社会実装）に関する講演会や意見交換を実施する。会員企業からの講演、話題提供も行い、会員企業の取組みを紹介することで、会員企業間の意見交換、及び連携の機会創出を目的とする。

- ・IoT センサ分科会は、IoT センサの基盤技術から周辺技術、活用事例に至る様々な情報について、分科会メンバー企業・団体同士での相互共有を通じて、関連領域のコトづくりに繋げることを目標とする。活動領域は、素材からデバイス、システム、実用商材（アプリケーション）と広範であり、主な想定実用商材の範囲はヘルスケア、スマート工場（製造）、家、インフラなどが挙げられる。活動方針としては、分科会メンバーの保有技術を実演形式にて技術紹介する『実演技術交流会』を継続し、同交流会の更なる飛躍に向けた他分科会との連携も模索する。また、継続してきた『未来像を考えるワークショップ』のまとめ報告会を実施する。ワークショップ活動の成果の具体化として、技術の可視化／具体化、具体的な課題設定と取組みについて、企画検討WGを中心に決めていく。

- ・ISO/TC229（ナノテクノロジー）の標準化動向について関係分科会にて情報共有を進める。産業界での標準化に関する価値向上の観点からの検討を継続する。

#### (2) テクノロジー委員会本体による情報収集・分析・発信活動

- ・会員企業の協力により「ナノテクの見える化」のデータを集め、nano tech 2026 における「ナノテクの見える化」のポスター展示と冊子配布、更に NBCI ホームページへの掲載により、成果を発信する。
- ・委員会・分科会にて纏めた情報を会員に展開する。一部情報に関してホームページを活用して会員外にも閲覧いただき、NBCI の認知度を上げる取組みを行う。

#### ③府省の取組みや動向に関する情報を収集し、会員に展開

会員が入手したい政策や動向に関する情報を委員会内でヒアリングするとともに、NBCI がコンタクト可能な機関情報を纏めながら要望のあった情報を収集し、会員企業へ紹介する場を形成する。

### 3. 社会受容・標準化委員会

#### 1) 事業方針

委員会の重要課題を社会受容及び標準化の観点で、以下の項目に設定し活動を進める。

- ① ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
  - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
  - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動
  - (3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信
  - (4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化
- ② ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備
  - (1) ISO/TC229 標準化活動
  - (2) OECD/WPMN 標準化活動

#### 2) 事業計画

- ① ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
  - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
    - ・ CNT 等に関する問合せ・FAQ の仕組みの効果的運用  
冊子「ナノカーボン FAQ」について、英語版を作成し nano tech 2026 等の関連イベントでの販売を検討する。
    - ・ CNT の取扱いに係る管理指針の作成  
CNT 産業のすそ野を広げるための活動を継続する。必要に応じて、「CNT 取扱い管理一覧表」を改定する。ばく露防止の観点から CNT を扱うすべての関係者（企業や大学・研究所等）にとってより実効性のある内容とすることを旨とする。
    - ・ CNT の短期発がん性評価法の国際標準化への支援  
後述の「CNT の短期発がん性評価法の国際標準化」を CNT 分科会として支援する。産業界として望ましい評価法のあり方を提案等する。
    - ・ EU の CNT 規制の動向への対応  
引き続き、欧州で検討されている CNT 規制に対して、省庁、NBCI 分科会メンバー企業と連携し、欧州当局へ JBCE 等を通じて意見を発信していく。
  - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動  
ナノ材料の有害性やリスク評価及び海外規制動向等に関する活動を重点課題として継続する。コントロールバンディング手法 (ISO/TS12901-2) を基に、翻訳 JIS 化を進めてきた翻訳 JIS TS Z 8932:2024 に関するガイダンスを公開し利用されることを目指す。  
海外規制対応に関しては、EU の REACH 等への対応も含め、分科会参加企業が参考となる情報を整理、共有する。

(3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信

・情報整備

引き続き「ナノ規制に係る情報」、「ナノ材料の安全性に関する情報」、「国際標準化」の項目について、情報入手を継続する。例えば EU 化学物質規制と関連する OECD の動向はナノ材料等への影響も大きいと想定されることから、その対象とする。また関連情報をデータベースとして運用する仕組みについても模索的に検討する。

・情報発信

上記の分類で得られた情報を基に、ナノナビにて情報発信する。

(4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化

ナノ安全に関連する他機関の見直しを継続させ、情報交換・意見交換を系統的に進める。国際ナノテク業界団体と連携して、共通の目的認識のもと、互いに情報を共有し、ナノテクノロジーを取り巻く課題に取り組んでいくことを検討する。ネットワーク（マップ）は都度改定する。

②ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備

(1) ISO/TC229 標準化活動

・CNT 等ナノ材料の短期ばく露発がん性評価法

ISO/TC229 提案に向けた取組みを支援する。

・国際標準化に関しての新規活動のための模索的検討

NBCI の対応状況や考え方等について検討し、NBCI 会員の要望等を基に、新規活動に向けた検討を模索的に行う。

・国内審議委員会及び分科会活動

ISO/TC229 国内審議委員会及び 4 分科会に委員を派遣し、産業界を代表しての意見具申等を通して規格作成に貢献する。

(2) OECD/WPMN 標準化活動

・「OECD/WPMN の概要及び最近の動向（主にナノ材料の性状や安全性評価の進捗状況等の観点）」に関する「情報入手とその対応」を継続的に進める。

#### 4. ビジネス委員会

##### 1) 事業方針

- ①特徴あるオープンイノベーション活動の促進
  - ・NBCI “ならでは” の多様性ある交流の場
  - ・シーズ・ニーズマッチングの促進
  - ・ビジネス基盤となるネットワーキング連携
- ②ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供
  - ・サプライチェーンの繋がり構築
  - ・WG メンバー間のニーズ・シーズマッチング
  - ・安全交流の場

##### 2) 事業計画

- ①特徴あるオープンイノベーション活動の促進
  - ・オープンイノベーション WG では、NBCI “ならでは” の多様性を活かした会員間の交流・連携の場としての取り組みに加えて、多様性の強化も意識して尖った技術や事業モデルを有するベンチャー企業等を招いて多様な会員企業との連携を促進する場など非会員も巻き込んで新規入会に誘う取り組みも進めていく。ビジネスのベースとなるパーソナルネットワークを構築し、社会課題解決に繋がるニーズ・シーズマッチング、ビジネスマッチングの促進を目指す。
  - ・令和7年度も、大学発シーズ紹介、会員からの事業紹介、計測インフォマティクスゼミ、ベンチャー企業等との連携促進イベント、素材産業の事業機会探索セミナー（宇宙ビジネスを含む）を開催する。
    - a) 「大学発シーズ紹介」や「会員による事業紹介」は、多様な会員企業間を繋ぐきっかけとなる活動として定着、連携アウトプットも見える形で生じている。会員メンバー間の少人数且つ双方向のコミュニケーションやパネルディスカッションの機会を多く設けて、社会実装価値と課題の理解と連携への興味を高めて、ニーズ・シーズマッチングを促進継続する。
    - b) 「計測インフォマティクスゼミ」は、「大学発シーズ紹介」の講演をきっかけに鷲尾先生と会員企業が主体的に連携して発足した実践勉強会（ゼミ形式）であり継続する。現在、ゼミで議論と作業を行う3件のテーマを選定中。令和7年11月に第2期第3回目を開催する。引き続き、ゼミ形式を継続し、関西大学 鷲尾先生にご指導いただきながら、会員企業の実務上の課題を解決し、そのプロセスをゼミ参加者と共有することで技術習得、人材育成に繋げることを目的とする。
    - c) 「ベンチャー企業等との連携促進イベント」では、尖った技術や事業モデルを有するベンチャー企業等を招いて多様な会員企業との交流、シーズ・ニーズマッチングの場として継続。

令和7年度は、新規イベントとして、以下(1)、(2)、(3)の目的達成のために、NBCI Start-up Award を企画し、Start-up 企業によるピッチコンテスト・個別商談会を行い、上位入賞の Start-up 企業には、1月の nano tech 2026 において、「NBCI Start-up Award」受賞の機会、nano tech 2026 での無料展示の機会、NBCI 正会員との連携・事業提携機会の創出の機会が得られるなどの特典を用意する。

- (1) NBCI の枠組みを活かし、Start-up 企業と NBCI 会員企業及び団体間の継続的かつ実効的なビジネスマッチング機会の創出
- (2) NBCI 会員企業（特に幹部会員企業）の新事業創出
- (3) Start-up 企業の正会員への入会への誘導

- d) 「素材産業の事業機会探索セミナー」では、メガトレンドの変化からくる成長市場のニーズを起点に、素材産業に焦点を当てた事業機会の探索、市場参入のための KSF の理解と満足度を高め、共同研究を視野にユーザーとの個別会合マッチングへ繋げる。テーマとして取り上げる市場・技術領域は会員の要望をもとに設定していく。

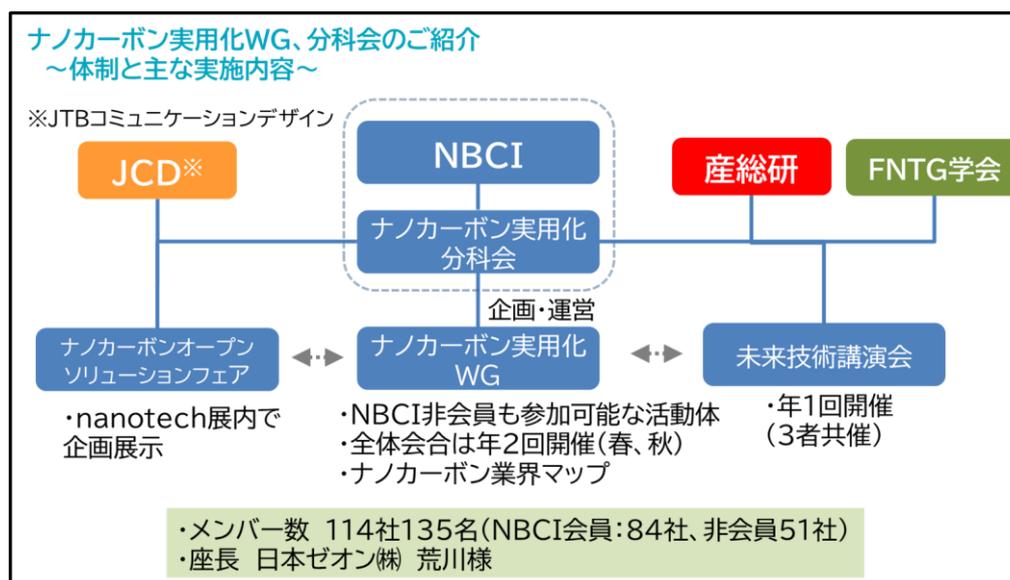
宇宙ビジネスにおいては、文部科学省の宇宙戦略基金のご担当の方をお招きし、「宇宙戦略基金に関する講演会」を開催し、NBCI 会員の宇宙ビジネスに対する意識を高めていただく。また、宇宙ビジネスベンチャー企業（「エレベーションスペース」「デジタルブラスト」「スペースワン」「インターステラテクノロジズ」の4社）をお招きして、宇宙ベンチャーのシンポジウムを開催し、会員企業の宇宙ビジネスに関するお悩みを解決する施策を実施する。

- e) 事業課題共有会合では、オープンイノベーション関連部署会合、投資家会合、産学官連携会合の3つのテーマを統合していたが、会員活動量に温度差があったため、再度関係者で協議した結果、産学官連携会合のみを残し、他のテーマについては終了することとなった。産学官連携会合については、取り組み体制が整ったタイミングで、今後のテーマの設定を行う予定。
- ・会員からの提案や要望をもとに、会合テーマの選定も柔軟に行い、テーマの新陳代謝を促すとともに、ベンチャー企業等の外部企業と会員企業を繋ぎ、双方にとって有益な活動にして、入会・会員企業へ呼び込むサイクルを回す。

## ② ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供

- ・ナノカーボン実用化分科会においては、ナノカーボン実用化 WG、ナノカーボン業界マップ、ナノカーボンオープンソリューションフェア、ナノカーボン未来技術講演会の企画・運営について検討する。

(1) ナノカーボン実用化 WG の体制、運営



- ・ ナノカーボン実用化 WG 全体会合を令和 7 年度内に 1 – 2 回開催する（春、秋に開催）。
- ・ ナノカーボン関係の企業にとって関心の高い安全関係やビジネスマッチングの着想に寄与する講演を定例化する。
- ・ リアル開催を原則とし、オンラインを併用したハイブリッド開催も検討する。

(2) ナノカーボン業界マップ

- ・ 2026 年版として更新する。nano tech 2026 でポスター展示するとともに、冊子配布や NBCI ホームページにて公開を予定するが、一部分のみなど、NBCI 会員／非会員向けに差別化を行うこと検討する。

(3) nano tech 2026 第 7 回ナノカーボンオープンソリューションフェア

- ・ ナノカーボンの製造及び使用等に関わる多様な企業の活動を集約して展示するもので、顧客にとってのソリューション提供の場、実用化用途の拡大に向けたビジネスマッチングの場として好評。令和 7 年度（令和 8 年 1 月開催予定）も本フェアを JTB コミュニケーションデザインと NBCI との共催で開催する。
- ・ ブース出展とオンライン展示のハイブリッド化も検討する。
- ・ シーズンズセミナーとフェア内容については出展企業の意見を取り入れ適宜見直しを図っていく。

(4) ナノカーボン未来技術講演会

- ・ ナノカーボンが期待される用途分野の動向及びナノカーボンへの期待を主旨とする講演会を企画し、第 5 回講演会を令和 7 年 10 月 17 日に産業技術総合センター臨海副都心センター（最寄り りんかい線テレコムセンター駅）にて、リアル開催する。「ナノカーボンが拓く次世代材料による高機能部材」をテーマに、リチウムイオン電池や半導体関係の 3 件のご講演をいただく。第 6 回

以降の開催については、第 5 回の参加者状況も踏まえながら企画の見直しを行っていく。

- FNTG 学会、産総研、NBCI の 3 者共催とし、1 回／年の開催を目指す。会計を FNTG 学会に依頼している状況であるが、企画の主を NBCI が担い会計担当も NBCI が実施できるよう検討する。会場は、今後、無償で借りることができる会員企業やオブザーバーなどの会場も検討する。

## 5. イノベーション推進委員会

### 1) 事業方針

委員会の重要課題を以下の項目に設定し、活動を進める。

- ①関係府省や研究開発機関からの政策や技術動向紹介
- ②ナノテクに関する府省・関連団体の動向調査

### 2) 事業計画

#### ①関係府省や研究開発機関からの政策や技術動向紹介

- ・政府関係者、公的研究機関、大学等の施策動向を情報収集するとともに、キーパーソンの講演会を企画・開催し、意見交換を行う。

#### ②ナノテクに関する府省、関連団体の動向調査

- ・令和 8（2026）年度開始の「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた NBCI 政策提言書の提出後のフォローアップ活動として、内閣府での「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関連する、各府省、関連団体の動向調査と、キーパーソンの講演会を企画・開催し、意見交換を行う。

## 6. 政策提言タスクフォース

令和 8（2026）年度開始の「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた NBCI 政策提言書の提出後のフォローアップ活動として、内閣府による「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関する情報収集、意見交換を目的とした講演会をイノベーション推進委員会が主体となり企画・開催する。

## 7. ネットワーキングタスクフォース

令和7年度も国際ナノテクノロジー総合展・技術会議に参加する。会期は、令和8年1月28日～30日の3日間、東京ビッグサイトで開催されるが、これまでとの大きな変更点として西ホールとなるが、NBCIブースは西ホール内で最も集客が見込める「アトリウム」に配置することを決定した。この機会を最大限に活用し、更なるビジネスネットワーク構築・拡大及びNBCIのプレゼンス向上を目指す。

### 1) 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 nano tech 2025

(令和8年1月28日～30日)

#### ①NBCIブース出展

今回も前回に引き続きNBCI単独でブース出展する。NBCIとしての出展規模・内容は前回と同様とし、NBCI活動紹介コーナー、ナノテクの見える化コーナー、企業事例紹介コーナーと新たにStart-up Award展示コーナーを設ける。ナノテクの紹介等を通してビジネス機会の拡大を図るとともに、来場者情報、オンラインアクセス情報を活用してNBCIとしての新規会員勧誘活動を実施する。

#### ②メインシアター講演

nano tech 2026会期中にメインシアター会場にて、NBCI講演を実施する(45分枠)。今回はNBCI活動紹介と内閣府 マテリアル戦略有識者会議 座長の山岸秀之様の講演を予定している。

#### ③第7回ナノカーボンオープンソリューションフェア

ナノカーボンの製造及び使用等に関する展示を集約することで、ナノカーボンに関するあらゆるソリューションを提供し、用途拡大に向けた効率的なビジネスマッチングの場を提供する。本フェアにあわせて特別講演も2件実施する(名古屋大学 教授 松尾豊 様、もう一件は現時点で未定)。

### 2) 第18回国際ナノテク団体会議 (令和8年1月29日開催予定)

国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 nano tech 2026会期中に、前回に引き続き、JTB コミュニケーションデザインとの共催によりリアル形式で開催する。本会議は、社会課題解決に寄与するナノテクノロジー事業の拡大と産業化基盤の整備という共通目的を有する各国ナノテク団体における活動トピックスの共有、連携構築の場としてネットワークの海外展開を図るうえでも引き続き活用する。

## 8. 会員サービス向上・新規会員勧誘

### 1) 情報発信・個別対話・会員活動支援

NBCI の活動トピックス（各種会合及び講演会等）、ナノ材料の安全・規制動向、及び政府政策関連情報を会員向けにタイムリーに情報発信する。情報ソースとしてのホームページの充実と効果的運用を引き続き図り、目指す姿と魅力をわかりやすく内外発信できるようにしていく。

併せて、NBCI 各委員会の活動に関する理解を深め、より活発に活用してもらうこと、会員サービスに対するニーズの把握、更には会員間のコミュニケーションの促進を図ることを目的に、会員各社との個別対話をこれまで以上に積極的に実施する。若手人材の参画も喚起していく。そして、NBCI のネットワーキング効果を活かして会員ニーズに対して適切に支援していく。

また、「ナノテクの見える化」「ナノカーボン業界マップ」や「ナノカーボン FAQ」といった NBCI の価値あるコンテンツをはじめとするナノテク関連データベースを会員と事務局で協力して更新・拡充、公開して、その利活用を促進していく。

### 2) 対外発表・広報活動・新規会員勧誘

ナノテクノロジーの先端技術動向を中心とした講演会の開催、nano tech 2026 展示会の場を利用して、NBCI 活動の価値を発信、広報活動を行う。

欧州等におけるナノ規制に対しても、セーフ・イノベーションを促進するために産業界として科学的エビデンスに基づく意見発信を継続していく。

大阪大学で実施している「大阪大学ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」の大学院／社会人向けの土曜特別集中講義への講師派遣を継続する。NBCI の「ナノテクの見える化」活動の紹介や各講師による専門分野の最新動向等の講義により、ナノテクノロジーの社会的貢献に関する理解を引き続き広めていく。

nano tech 2026 の NBCI ブースご来訪企業、ナノカーボン実用化 WG 参加企業、会員からの紹介企業等へ積極的にアプローチして対話し、NBCI 活動の価値と魅力をお伝えして新規入会勧誘を行う。

### 3) ホームページリニューアル

令和 6 年度事業報告でも触れたが、新ホームページのリリースは、令和 8 年 2 月頃を予定している。